

登録有形文化財



【熊本日日新聞社提供】（平成13年3月17日）



文部科学大臣の諮問機関、文化審議会（高階秀爾会長）は16日、玉名市中の県立玉名高校の本館、前庭池、正門を登録有形文化財に登録するように答申した。

平成8年度に始まった同制度は、優れたデザインを持ち住民に親しまれている築後50年以上の建造物が対象。県内ではこれまで熊本市黒髪の熊本大学本部などが登録されており、玉名高で22カ所48件。全国累計は2351件。

玉名高本館など3件はいずれも昭和12年に建造。本館は鉄筋コンクリート造り3階建てで、当時、先進的だった幾何学的なデザインを取り入れている。旧制中学の本館としては、県内で唯一の戦前建造物。

前庭池は旧制中学の「中」を表現したものと伝えられ、優美な曲線をした正門（間口5^尺、高さ3^尺5^寸）から続くアプローチは創建当時の姿を残している。

平成15年には創立百周年を迎える同校の戸田善人校長は「本館などは地域のシンボリック存在で、卒業生たちの誇り。登録は百周年を前にいい記念になった」と喜んでいる。

※写真は玄関横の壁に埋め込まれたプレート

※ [文化財建造物の登録について\(報道発表\)](#) ※ [文化財登録証の伝達式\(2001.11.28\)](#)



登録証



【本館】

☆登録基準…造形の規範となっているもの
 ☆特徴・評価…旧制玉名中学校本館として建設。鉄筋コンクリート造3階建のアールデコ建築で、正面東端寄りの時計塔頂部及び中央の玄関車寄部とその上部に装飾を効果的に集中させるデザインでまとめる。設計担当は名高工出身で熊本県学校営繕技師の近藤良馬。



【正門】

☆登録基準…国土の歴史的景観に寄与しているもの
 ☆特徴・評価…JR鹿児島本線玉名駅から北へ向かう駅前通りの突き当たりに位置する。道路より退いて間口5mの門を開き、両脇塀にアーチ形の通用口を設ける。通用口上部に起り形のカーブをつけ、末端部は植木を囲うように曲面状にするなど流動感のある造形に特徴がある。



【前庭池】

☆登録基準…国土の歴史的景観に寄与しているもの
 ☆特徴・評価…本館の南前庭に位置するコンクリート、笠石付きの池で、水深約1m、周長約50mの半円形2池から成る。2池の間に通路を通しており、上から見ると「中」の字の形になる。3棟の校舎の玉字形配置に呼応して「玉中」を表現したものと伝える。

★登録有形文化財

1996年、歴史的な建物を、外観を壊さずに利用しながら保護することを目的に登録制度が始まった。建築後50年以上経過した建造物で、所有者の申請に基づいて登録、建物が残る限り登録を抹消されない。現在、2,980件が登録されている。重要文化財などの指定文化財と違い、届出なしで内部の改修ができるなど制約が緩やかな分、行政からの支援は少ない。

★継承すべきもの

正門をくぐると、鬱蒼たる緑濃き木々の向こうに眩いばかりの白亜の建物が目に飛び込んでくる。まるで記念写真のような構図がある。右手には紺碧の空に突き立った時計塔、中央玄関へのアプローチに沿って両側に配置された池の水面の微かな煌めきが、唯一、時が動いている事を教えてくれている。

「美しいですね。さすがに伝統校ですね。……」本校への訪問者がまず口にする言葉である。

本校は百周年、一つの節目を迎えた。昭和十二年五月十四日、新校舎落成式における隈部了孝学校長の式辞の一節「願はくは天災地変にも堪え、更に幾十百年の後迄も、思ひ出の学窓の存在することが、……鉄筋コンクリート建築の実現をと熱望して止まなかつたのであります。」高らかに且つ荘重に二千五百名を越える参列者の前で読みあげられた。式後には提灯行列、屋上からの花火など、当時の感激興奮の様子が『玉名高校七十年史』に詳述されている。

人は百年あれば何ができるだろう。人が個人で為す体験など、たいしたことではない。

この白亜の殿堂は喜び、悲しみ、苦悩、葛藤を内包し、歓喜の雄叫び、感動の涙といった万を越える数の青春を見続けてきた。そして今年、玉名高校として五十五回目の卒業生を送り出そうとしている。放課後、帰宅を急ぐ玉高生の一人が正門を出たところで校舎に向かって一礼している姿を見た。ほっとした。継承すべきものを私達はまだ見失っているわけではない。

国語科 大原 朋章

(玉高育友会だより第113号 平成14年12月24日発行より)

🏛️ 建物保存運動について(2001.6.11)🏛️

本館保存のような建物保存運動は歴史的な建物を残すと同時にゴミを発生させないという2つの面で大きな意味があります。戦前の建物はきちんと造られており、耐震性も高く長持ちすることがわかっています。玉名高校の本館は良質の砂とセメントを使い、相当の大地震に耐えられ、補強工事の必要もないということです。全国的にも、残り少ない戦前の学校建築物の保存運動が進められています。

🏠 **栃木県立栃木高校**…講堂は明治43年に落成し、その美観は現在も当時の面影を残している。平成10年、文化財に登録された。

🏠 **鹿児島県立鹿児島中央高校**…本館は昭和10年に竣工。直後に大本営が置かれ、昭和天皇の行在所ともなった。創建当時は鉄筋コンクリート造りによる校舎は珍しく、しかもその造りには多くの意匠がこらされ、特に正面玄関の階段室をもつ建物隔部の内部構造等は空間との調和を醸し出す造りとなっており、現在でも当時の美しさをそのまま残している。

その他に、鹿児島県立甲南高等学校、東京都渋谷区立広尾小学校などでは全面保存運動が進められている。愛知県立旭丘高校では、建て替え計画が進行中だが、建物保存を求める市民と高校OBが校舎取り壊しの差し止めを求めて名古屋地裁に仮処分を申請した。(旭丘高校のその後…名古屋地裁への仮処分申請は認可されず、2000年12月に校舎の取り壊しが始まり、2002年3月に旧校舎の面影を一部残した状態で新校舎が完成。2006/4/7更新)